

駅裏手の山でも登り甲斐のある山 本 仁 田 山

実施日 2012年10月7日(日)

天 候 小雨/曇り

リーダー 渋谷 京子

参加者 一柳 昭、涌井 良明、島本 陳重、石附 智江、渋谷 京子、伊藤 久雄、石原 勝正、岩崎 陽子、斉藤 伸二郎、長浜 隆行、長浜 あゆみ、松沢 力、矢作 多恵子、熊本 紗江子 計14名

費 用 新宿⇒奥多摩¥1,050 鳩ノ巣⇒新宿¥1,050 計¥2,100

タイム 奥多摩駅(9:35)安寺沢登山口(10:15~10:25)休750m付近(10:52~10:57)休817m付近(11:11~11:16)休950m付近(11:35~11:40)花折戸尾根分岐(12:27)本仁田山(12:32~13:10昼食)コブタカ山(13:30~13:35)休900m付近(14:20~14:25)大根ノ山ノ神(14:50~14:53)鳩ノ巣駅(15:38)

明け方には上がると言う予報であったが回復が遅れ雨の奥多摩駅に降り立った。総勢14名の大会、私の心配をよそにメンバーの顔は明るく「こう言う山行も有りじゃないの」との声に後押しされ、駅から右へ進み北氷川橋を渡って右折、再び女夫橋で日原川を渡り返す。下に目をやると清らかな川の流れが目に飛び込んでくる。

道標に導かれ安寺沢への車道歩きとなるが、これが思いのほか急坂で雨具を着込むと暑くてたまらない。

40分程で安寺沢登山口に到着。願いが通じたのか予報通りか雨も上がったよう



だ。準備を整え民家の脇を通って山道へ入る。静寂の杜に凜とした空気が張り詰めている。道は次第に沢を離れ、杉・桧の植林



帯の急坂をジグザグに登る。

本仁田山は奥多摩三大急登の一つと云われ、かなり手強そう



だ。標高差約900mを2時間半で登ると言うだけあって、たちまち汗が吹き出してくる。杉・桧の樹林に秋の陽がさし、その煌きに思わず歩を緩める。時折吹き渡る風が汗ばんだ身体に心地良い。ブナ、ミズナラ、カエデの雑木林に変わると露岩が目立つようになり足元に注意を払い通過する。



相変わらずの急登続きの道に、何とイガ栗がポツポツと！次第に行く手

には埋め尽くさんばかりの山栗のご褒美に、皆童心に返り登山そっちのけで栗拾いに興じる始末・・・苦行の道が栗のお陰で飛びっきりの笑顔に！やがて右から花折戸尾根の道を合わせ、緩やかな稜線を一登りで1224mの三角点のある本仁田山に到着。



晴れていれば東面からは高水三山や棒の折山が見渡せる筈だが厚い雲のカ



ーテンに覆われ展望はあまり期待出来なかった。

記述に依ると本仁田山の山

名の由来の一説にヌタ場(イノシシが体を冷やしたり水分を摂つたりする為に掘り返した湿地)に由来し「ヌタ」が「ニタ」となって「仁田」を当てた・・・と



ある。そういえば栗の道にはイノシシが掘り返したような穴がいくつもあったのを思い出す。

昼食、写真撮影後北へ100m程で右に折れアセビに覆われた緩やかな稜線を下り、



登り返すとコブダカ山である。杉ノ殿尾根はいきなりの急坂だが間もなく歩き易

い稜線になる。左に川苔山が望め正面には高水三山だろうか？雲の切れ間から顔を覗かせている。木々の葉は9月の暑さ



の影響か、まだ青々としていて秋の深まりは感じない。やがて大ダワ

からの巻き道を左から合わせ尾根通しに下って行くと林道に飛び出す。大山祇ノ神の祠が祀られている大根ノ山ノ神が樹林の奥に鎮座している。



鳩ノ巣への道標に従い純白のシシウドに見送られグングン下って行く。やや薄



暗い杉林を抜け暫くすると右下に民家が目立つようになり、正法院前の舗道に出る。右へ

坂を下って棚沢の集落を過ぎ、踏み切りを渡って左折すると鳩の巣駅に着く。



本日は雨にも関わらず参加されたメン

バーの皆様、又サポートしてくれた先輩リーダーの方々、厳しい山行でしたが「こぶし会」の底力を見た思いでした。有難うございました。 又、是非ご一緒に！！

(記・渋谷 京子)

(写真提供・涌井良明/伊藤久雄)

